

移動の人生・故郷の力

戦後日本を等身大に生きる

企画者 作道信介(弘前大学)

近代化の社会心理学

- 目的
 - 戦後復興、高度成長、低成長、バブル崩壊、失われた10年、世界同時不況・・・
 - 東北地方、戦後日本の近代化の影響を強く受けた周縁地域
 - 「近代化への対応」に今後の可能性をみること。
- 事例
 - 出稼ぎ、集団就職、限界集落

2

背景

- 近代化
 - 産業化(工業化)がもたらす社会変動
 - 経済成長、所得の増加、工業生産、民主主義
 - (脱)物質主義、合理性、個人化、世俗的価値
 - 私たちがいま・ここにいる近代化
- これまでのアプローチ
 - 収束仮説、国単位の比較、一般的傾向の抽出
 - 適応的な成功者／疎外・抑圧された犠牲者

3

シンポの特色

- 等身大の対応
 - 近代化に翻弄された犠牲者ではなく、抵抗するのもなく、諸力のなかで、できることをなし利用できるものを利用してよりよい生活をめざした人びととして、**当事者の人生経験に即して描く**
 - **近代化のなかでの生き方の多様性とインターローカリティ**
- * 多様性(vs収束)、地域性(vs国家)、例示(vs一般傾向)

4

青森県地図



2009/8/5

5

フィールド



- ケニア北西部
- 牧畜民トゥルカナ
- カクマ周辺
- 80年代からの干ばつ
- 1992年の難民キャンプ設置(max.8万人)
- 大きな社会変動
 - 人口の流入
 - 食生活の変化

6

世界を結ぶ



2009/8/5

7

等身大を描く方法

- 枠組み: フィールド系社会心理学
 - 「文化と社会と個人の出会い」の研究
 - 社会的出来事を、特定の歴史的状況や経済情勢のなかでの、個人と文化・社会との重なり合いから理解すること
- 方法: フィールドワーク
 - 「物事がおきるまさにその現場に身をおきそこで体験することを核にしながらも、同時に**さまざまな技法を駆使して**社会や文化あるいは人間存在という複雑な対象を丸ごととらえようとするアプローチ」(佐藤, 2000, p214)

8